

中施策評価書

作成日 令和04年 5月 16日

中施策事業名	多文化共生推進事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市在住の外国人市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市在住の外国人市民に対し、生活に必要な手続きやイベントの情報を提供することで、市及び周辺住民と関わるきっかけを持つことができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・豊明市国際交流協会支援事業 ・多文化共生施策懇話会の開催及び多文化共生計画の推進 ・外国語版広報の作成・配布 ・シェパトン市との交流事業 ・ポルトガル語通訳の配置及び関係課との調整 ・多言語対応の三者間通話による電話通訳 ・各課から依頼の翻訳物依頼 ・会計年度任用職員に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
外国語版広報の取得率	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	80	80	80	80	80	80
	実績値	72	82				
単位	%						
日本語教室の参加者	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	300	300	350	350	350	350
	実績値	97	70				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				10, 042千円	10, 126千円	
	a 事業費合計			10, 042千円	10, 126千円	9, 524千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				3, 036千円
③ コスト (①－②)				7, 006千円	6, 177千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				102 円	90 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価「B」 外国版広報（英、中、ポ、ベ）は、各施設・店舗等で定期配布し活用されている。またフードギフト事業による外国人キーパーソンが発掘によりSNSを通じた外国語版広報の周知が大きく広がり、Facebook登録者が増え、情報チャネルができた。また、日本語教室は、コロナ禍の制限により利用が大きく減った。日本語ボランティア養成講座については、フルオンライン開催とし、コロナ禍での事業実施ができた。また、市役所で三者間通話の電話通訳を開始し、多言語対応が可能となった。また利用状況（利用件数・利用言語・問合せ内容）の検証を行い、利用の多い月や言語、頻回に使用される問合せ内容がわかった。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	外国人市民やその関係者へ、三者間通話の電話通訳につながる外国人専用ダイヤル情報のチラシ等を作成し配布を行う。または、外国人キーパーソンからの周知を推進し、電話通訳の周知を行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	Facebookによる定期的な情報発信。電話通訳、外国版広報等の周知を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 6月 28日

中施策事業名	区・町内会活動支援事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	区・町内会等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	区・町内会の実情や特性にあった財政支援を受けられ、地区交流拠点の新設、交流機会の充実を図ることが可能となっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 区長会・区長連合会 ・ 区一括交付金・正副区長報償 ・ コミュニティ助成事業 ・ 集会所改修等補助金（借上事業含む） ・ 町内会等配布物（回覧・全戸配布） ・ 地縁団体の登録、変更手続き及び証明書交付 ・ 土木工事認定委員会		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
地区交流拠点の年間設置箇所数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	1	1	1	1	1	1
	実績値	1	1				
単位	箇所						
集会所改修等補助の件数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	5	5	5	5	15	15
	実績値	16	11				
単位	箇所						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				73,340千円	68,855千円	
	a 事業費合計			73,340千円	68,855千円	70,021千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				5,000千円
③ コスト (①－②)				68,340千円	66,355千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				993 円	964 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価「A」 地区交流拠点として整備した市民交流センターは、共生交流プラザに移管するべく、関係者との合意形成を図った。市民の交流の中核拠点として規模、機能ともに充実できた。また、老人憩いの家の地元への譲渡に目途がたち、集会所を所有していない地域が交流拠点を所有できることとなった。また、地域一括交付金の見直しを行い、減額となる区がないよう算定基準の増額を行い、一定の不公平感の解消につながった。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	老人憩いの家の譲渡にあたって認可地縁団体化した地域について、引き続き運営体制等の支援を行っていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	老人憩いの家の譲渡にあたって認可地縁団体化した地域について、引き続き運営体制等の支援を行っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 5月 10日

中施策事業名	L G B T 事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市民及び職員		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	L（レズビアン・女性同性愛者）G（ゲイ・男性同性愛者）B（バイセクシュアル・両性愛者）T（トランスジェンダー・生まれたときの性別にとらわれずに生きたい）その他、多様な性についての理解が進んでいる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 理解促進研修会の開催 ・ 他自治体との意見交換会		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
L G B T理解促進 のための研修会	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	8	9	8	8	8	8
	実績値	4	4				
	単位 回						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				268千円	379千円	
	a 事業費合計			268千円	379千円	319千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				268千円	379千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				4 円	6 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価「B」 高校（2校）、中学校（1校）、市役所新人職員（1回）、の協力を得て年4回実施。研修前アンケートでは、LGBTという言葉の認知度はかなり高いという結果が出ており、一定の関心の高さは伺えている。研修後は、身近に当事者がいた場合に力になりたいと回答する割合が高くなっており、研修の効果として理解から行動への変化が期待できる。また、パートナーシップ宣誓制度を利用する際、宣誓場所や必要書類等も、公正に利用ができるよう配慮した。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	啓発パンフレット等の資料を作成し、あらゆる機会に配布し啓発を行う。また、当事者にとって積極的な広報周知を好まない傾向にあるため、他市町との意見交換や関係団体から当事者の声を取り入れ、環境整備に努める。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	中学校、高校での研修会が定着しつつあるので、引き続き継続する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 12月 5日

中施策事業名	共生交流プラザ管理運営事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市民、地域の多様な主体		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民や地域の多様な主体が交流し、世代や分野を超えてつながる場所です。この場所で、市民一人ひとりの生きがいを、地域とともに創っていく地域共生社会の実現を目指す。		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 豊明市共生交流プラザ管理運営事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
来館者数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	50,000	55,000	60,000	65,000
	実績値	0	0				
単位	人						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和02年度	令和03年度	令和04年度	
① 総事業費 (a+b)				0千円	12, 343千円		
	a 事業費合計			0千円	12, 343千円	51, 731千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				0千円	0千円
③ コスト (①－②)				0千円	12, 343千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				0 円	179 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価「B」 令和4年度の供用開始に向け、管理運営の検討にあたっては、サウンディング調査を実施し、民家事業者のアイデアや事業者が参画しやすい公募条件を整理し、結果的に8事業者と多くの事業者から指定管理者の決定することができた。また、設置条例の制定や備品等の調達、運用ルール等指定管理者との協議などを実施した。供用開始前であり、成果指標は設定できないが準備状況は順調である。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	利用者の安全確保のため、危険個所がないか施設内の点検、対応を徹底する。 利用状況や利用者の声を確認しながら、運用ルールの改善や必要な備品の調達、施設の修繕を行っていく。また、企業版ふるさと納税による財源確保に向けたPRも実施する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	利用状況や利用者の声を確認しながら、運用ルールの改善や必要な備品の調達、施設の修繕を行っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 4月 25日

中施策事業名	豊明夏・秋まつり支援事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	市内外の人がとよあけの魅力を楽しめる環境をつくる		
④中施策事業の対象	市民、市外の人及び実行委員会		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	豊明市の風物詩である夏まつり及び秋まつりを多くの人に体感してもらうことにより、実行委員としてまつりの企画・運営に携わる人材の増加・育成につながっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 豊明夏まつり実行委員会事務 ・ 豊明秋まつり実行委員会事務		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
豊明秋まつり来場者数(延べ)	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
	実績値	0	0				
単位	人						
豊明夏まつり来場者数(延べ)	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	52,000	52,000	52,000	52,000	52,000	52,000
	実績値	0	0				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				0千円	3,500千円	
	a 事業費合計			0千円	3,500千円	6,500千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				0千円	3,500千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				0 円	51 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価「B」 新型コロナ感染拡大防止のため、不特定多数が集まるイベントは開催できる状況ではないため、通常のまつりの開催は中止した。その代わり、夏祭りではサプライズ花火を実施し、市民から大変好評を得た。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	コロナ終息後に再開できるよう、実行委員会組織と協議をしつつ、関係者のモチベーションの維持を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	コロナ感染状況を鑑みながら、可能な範囲のイベントを実施していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 4月 25日

中施策事業名	友好自治体交流事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	31 豊明市に魅力があふれ、「通過するまち」から、「足を運んでいただけるまち」になっている		
②大施策	とよあけの魅力を高め、訪れる人を増やす		
③中施策	とよあけの魅力を発信する		
④中施策事業の対象	市民・市民団体等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	上松町・豊根村に市民や団体が訪問することによって交流が生まれ、人々に豊明市の魅力を伝えることができています。友好都市交流事業は、お互いの市民及び職員を派遣・受入交流し、お互いの文化を伝え、学ぶことができています。		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 豊根村との交流事業 ・ 上松町との交流事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
上松町交流事業参加者数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	40	40	40	40	40	40
	実績値	0	0				
単位	人						
豊根村温泉施設利用者	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
	実績値	627	654				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和02年度	令和03年度	令和04年度	
① 総事業費 (a+b)				352千円	375千円		
	a 事業費合計			352千円	375千円	451千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)			352千円	375千円			
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))			5 円	5 円			

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価「B」 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、都市間交流が実施できる状況ではないため、事業は中止した。豊根村温泉施設利用者についても令和2年度からコロナ禍による利用者減につながっている。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	友好都市と今後の事業実施の可否について協議していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常通りの都市間交流が実施できる状況ではないため、可能な範囲の交流事業を模索していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 6月 28日

中施策事業名	市民活動支援事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	34 若い世代も地域で活動し、地域の自治力が高まっている		
②大施策	若い世代が地域活動で活躍し、地域の自治力を高める		
③中施策	世代を超えて連携し、地域の問題を自ら解決する環境をつくる		
④中施策事業の対象	市内地域社会活動団体に所属している人		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市内各団体が自立し相互に支え合いながら地域活動の一角を担っている。		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	協働推進委員会開催、協働推進計画推進・市民活動保険、アダプトプログラム推進・市民提案型まちづくり事業交付金 ・情報サイト運営、備品、公用車貸出		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市民提案型交付金の採択事業数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	13	13	13	13	21	21
	実績値	11	9				
単位	事業						
パソコン活用講座の参加者数（パソコン持込みも含む）	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	60	60	60	60	60	60
	実績値	13	10				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費 (a+b)				8, 503千円	9, 458千円	
	a 事業費合計			8, 503千円	9, 458千円	8, 786千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				140千円
③ コスト (①－②)				8, 363千円	9, 318千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				122 円	135 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価「B」 市民提案型事業については、新型コロナ感染拡大防止のため、人を集めての事業は実施しにくい状況であった。そのためビギナーコースの申請が多く、小規模ながらもコロナ禍でもできる範囲の事業を実施した。パソコン講座についてもコロナ禍での実施にともない参加者は減少した。 協働推進計画の中間見直しを行い、地域共生社会を目指す市民活動支援の新たな方向性を示すことができた。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	あらたな市民活動の拠点となる共生交流プラザカラットにおいて、多世代多分野の活動がまじりあう事業等を実施し、困難を抱えた方も誰もが興味関心が広がる場所となるよう充実させていく。 多くの通いの場や活動を情報化し、社会的資源にアクセスしやすい環境を目指す。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	「支え手」「受け手」の関係を越え、人と人、人と社会のつながり、誰もが孤立せず、役割や生きがいを持って暮らすことができる「地域共生社会の実現」を目指せるよう、どのように地域の方々が地域の課題解決するまでの行動につながるようなストーリーを周知させていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 5月 10日

中施策事業名	男女共同参画推進事業	部課名	市民生活部・市民協働課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	36 女性が職場や地域で活躍し続けている		
②大施策	女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくる		
③中施策	職場や地域において女性の活躍の場を増やす		
④中施策事業の対象	市内在住・在勤の女性		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	女性の社会生活活動やグループ活動への参加のきっかけづくりや子育て中の女性が自分のために使える時間（学習時間）の提供を目的とした講座を実施することで、様々な年代の女性が、自分らしい生き方を選択できる第一歩となっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 男女共同参画懇話会の開催及び施策の企画推進 ・ 男女共同参画講座の企画及び開催 ・ 男女共同参画推進担当職員に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
講座参加満足度（アンケート調査）	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	98	100	100	100	100	100
	実績値	87	100				
単位	%						
男女共同参画チラシ配布箇所数	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	1	2	3	3	3	3
	実績値	2	2				
単位	箇所						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和02年度	令和03年度	令和04年度	
① 総事業費 (a+b)				432千円	301千円		
	a 事業費合計			432千円	301千円	495千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				0千円	0千円
③ コスト (①－②)				432千円	301千円		
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				6 円	4 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	総合評価「A」 男女共同参画講座について、今後の共生交流プラザカラットのオープンを見据えて、市民大学ひまわりとの共催事業とした。単独で実施するより、質の高い講座を実施することができ、満足度も非常に高いため、今後につながる改善となった。男女共同参画フェスタの事業の代わりに啓発チラシの配布に評価指標を変更した。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	男女共同参画フェスタが事業終了としたことから、啓発チラシを成人式等あらゆる機会に配布し、啓発活動を行っていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	共生交流プラザカラットにおいて、多世代多分野が交じり合う事業を、指定管理者や市民活動団体と協働で実施していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等